

アジアに架ける虹の橋

# アジア生協協力基金活動報告書

2022



## はじめに

# 新型コロナウイルス感染症の世界的流行が長期化する中、 さまざまな困難を乗り越えて取り組まれた活動に対して 助成を実施することができました

2020年からの新型コロナウイルス感染症の世界的流行は2021年も続き、日本はもとよりアジア各地において、社会的に脆弱な状況にある人々に打撃を与え、貧困・格差の問題を深刻化させました。

そうした中、さまざまな困難を乗り越えてアジアの生協同士の交流・研修活動や、アジアの人々の社会的自立・経済的自立に向けた人材育成や組織づくりの活動は着実に進められ、それらへの一助としてアジア生協協力基金による助成を実施することができました。

アジアの生協同士の交流・研修活動への助成は、新型コロナウイルス感染症の影響により全国大学生生活協同組合連合会による企画のみとなりましたが、ICA アジア太平洋地域・教育機関協同組合委員会主催のワークショップ・ウェビナーがオンラインにて開催され、支援を行いました。

一方、国内に拠点を置くNPO・NGOや市民グループなどによるアジア・太平洋地域での人材育成や組織づくりの活動への助成は、新型コロナウイルス感染症の影響のため活動期間を2022年度まで延長した1企画を除く7企画に対して実施することができました。人の移動や集まる事に大きな制約がある中で、オンラインを利用するなどの工夫をしながら活動が行われました。

全国の生協と日本生活協同組合連合会からの寄付金により1987年に設立されたアジア生協協力基金は、今日に至るまで全国の生協に支えていただきながら活動を続けています。2022年度はこれまで以上に全国の生協や国際活動支援組織との連携を強め、活動を充実させることを目指しています。今後ともアジア生協協力基金の活動へのいっそうのご理解とご協力をお願いいたします。



2022年6月  
公益財団法人 生協総合研究所  
代表理事 専務理事 藤田 親継

# アジアに架ける虹の橋

## アジア生協協力基金活動報告書 2022

はじめに .....	1
目次 .....	2
アジア生協協力基金 設立の経緯 .....	3
アジア生協協力基金 運営委員会 .....	4

### 第1章 2021年度の活動報告 .....

1 2021年度の助成事業の概況 .....	6
2 2021年度の助成先一覧表 .....	7

#### 個別活動報告

##### 〈国際協力助成企画〉

1. 全国大学生生活協同組合連合会 .....	8
-------------------------	---

##### 〈一般公募助成企画〉

1. 認定特定非営利活動法人 Hope and Faith International .....	10
2. 特定非営利活動法人 フェア・プラス .....	12
3. 特定非営利活動法人 幼い難民を考える会 .....	14
4. 特定非営利活動法人 Colorbath .....	16
5. 特定非営利活動法人 アジアキリスト教教育基金 .....	18
6. 一般社団法人 Piece of happiness .....	20
7. Share the Wind .....	22

3 2021年度の財務関係報告 .....	24
1. 2021年度の基本財産と一般正味財産 .....	24
2. 2021年度の助成事業の執行状況 .....	24
3. 2021年度の財務関係報告資料 .....	25

### 第2章 2022年度の活動計画 .....

1 2022年度計画決定の経緯 .....	28
2 2022年度事業計画 .....	28
3 2023年度の一般公募について .....	31

資料 アジア生協協力基金・生協別寄付金一覧表 .....	32
------------------------------	----

## アジア生協協力基金 設立の経緯

アジア生協協力基金は、1987年、アジアの生協・協同組合の発展への貢献と交流・協力活動の推進を目的に、日本生活協同組合連合会（以下、日本生協連）とその会員生協の寄付金によって設立されました。当基金は、1989年、日本生協連によって同年に設立された財団法人 生協総合研究所（以下、生協総研）に移管され、1991年より、アジアの生協を対象とする役職員の研修事業などが、運用益を利用して実施されてきました。2021年3月末の基金の基本財産は約8.8億円です。

現在、韓国・ベトナム・インド・シンガポールなどの国々の生協は、それぞれの国の流通業界のなかで、また、医療生協や大学生協は医療や教育において大きな役割を發揮しています。こうした生協では、日本で研修を受けた役職員が活躍しています。

2009年、生協総研は公益財団法人に移行しました。これに伴い、アジア生協協力基金にも、より公益性を發揮することが求められました。このため、日本国内に拠点を有する非営利組織・グループへの一般公募による助成を開始しました。助成の対象は、アジア各地で展開される事業で、住民の協同の力で社会的経済分野での開発や問題解決を目指すプロジェクトです。とりわけ人材開発事業や事業の立ち上げのための活動が対象となります。過去5年間の一般公募による助成実績は下表のとおりです。

助成年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
対象組織数	8組織	6組織	7組織	6組織	10組織
助成金額合計	699万円	581万円	620万円	427万円	879万円



アバカの苗木を運ぶ村人（フェア・プラス）

## アジア生協協力基金 運営委員会

2009年5月、生協総研理事会は、アジア生協協力基金運営委員会の設置及び規程の設定を承認しました。アジア生協協力基金運営委員会では、本基金による国際協力事業の運営に関する事業計画および事業報告について審議を行い、生協総研理事会に報告をしております。

アジア生協協力基金運営委員の構成は、生協総研の評議員と外部専門家の5人となっています。2022年5月現在の委員は以下のとおりです。

- 委員長 : 村田 雄二郎 (同志社大学グローバル・スタディーズ研究科 教授)
- 委員 : 新井 ちとせ (日本生活協同組合連合会 副会長、生協総合研究所 評議員)
- 委員 : 大信 政一 (パルシステム生活協同組合連合会 理事長、生協総合研究所 評議員)
- 委員 : 中西 徹 (東京大学大学院 総合文化研究科 教授)
- 委員 : 湯本 浩之 (宇都宮大学 留学生・国際交流センター 教授)

※委員50音順



運営委員会の様子 (2022.4.16)

# 第1章

## 2021年度の活動報告

### 1 2021年度の助成事業の概況

### 2 2021年度の助成先一覧表

#### 個別活動報告

##### 〈国際協力助成企画〉

1. 全国大学生生活協同組合連合会

##### 〈一般公募助成企画〉

1. 認定特定非営利活動法人 Hope and Faith International
2. 特定非営利活動法人 フェア・プラス
3. 特定非営利活動法人 幼い難民を考える会
4. 特定非営利活動法人 Colorbath
5. 特定非営利活動法人 アジアキリスト教教育基金
6. 一般社団法人 Piece of happiness
7. Share the Wind

### 3 2021年度の財務関係報告

1. 2021年度基本財産と一般正味財産
2. 2021年度助成事業の執行状況
3. 2021年度の財務関係報告資料

# 第1章 2021年度の活動報告

## 1 2021年度の助成事業の概況

### (1) 国際協力助成企画

国際協力助成企画は2020年度までは日本生協連・国際活動委員会により起案されてきましたが、国際活動委員会の廃止に伴い、2021年度より日本生協連国際部および全国大学生協同組合連合会（以下、全国大学生協連）と日本医療福祉生活協同組合連合会（以下、医療福祉生協連）より起案され、生協総研にて取りまとめることになりました。

2021年度は、新型コロナウイルス感染症の影響のため、全国大学生協連の1企画のみの実施でした。ICA アジア太平洋地域・教育機関協同組合委員会主催 教育機関協同組合のワークショップをオンラインにて開催しました。

日本生協連は、例年4企画が実施されますが、2021年度はICA-APの活動の実施が新型コロナウイルス感染症の状況のため見通しがたらず、助成への企画申請は見送られました。

医療福祉生協連も、2020年度に新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった韓国医療福祉社会的協同組合連合会による香川医療生協の視察の企画を2021年度に開催し、助成金の申請を想定しておりましたが、医療・福祉事業での視察のリスクや渡航費の高騰を鑑み、再度の中止を決定し、2021年度の申請は見送られました。

### (2) 一般公募助成企画

一般公募助成企画では8企画の助成のうち7企画が実施されました。また、2020年度より期間を延長した3企画も活動を行いました。2021年度も新型コロナウイルス感染症の流行は継続し、人の移動や集まる事などに制約があるなか、オンラインを利用することなど、工夫をしながら活動が行われました。

「幼い難民を考える会」の事業は、3年目の助成となり、カンボジアで、現地の行政や地域の人たちを巻き込んで「村の幼稚園」を開設し認可を受けてきました。地域で継続して運営ができるよう保育者の技術向上に丁寧な研修を計画的に実施し、村の自主運営につなげています。

「Colorbath」の助成も3年目となりました。コーヒー豆の収穫に向けて、農家の方へのマニュアル作りを行い、生産者組合の運営の強化に努めています。

「アジアキリスト教教育基金」は、2年目の助成となりました。マイクロファイナンスで融資を受けた現地の女性たちがお茶屋さん、渡し船、稲作等さまざまな仕事を開始し、返済を上回る収入を得ることができるようになり、生活の向上に大きく貢献しています。

「フィリピン日系人リーガルサポートセンター」は、事業実施地であるフィリピンの新型コロナウイルスの感染拡大、およびそれに伴う厳しい隔離措置により活動が困難となりました。活動を行うパラワン島は、医療体制が脆弱な離島であり、コロナ禍での移動・行動制限が厳しい上に、インターネットのアクセスも困難な地域のため、オンラインでのワークショップの実施も実現しませんでした。現地の期待に応えるためにも、事業は次年度に延期して実施したいとの申請があり、アジア生協協力基金運営委員会で1年間の延長が承認されました。2022年度の助成先と同時期に事業が行われるため2023年度の年次報告書で活動の報告を行います。

## 2 2021年度の助成先一覧表

### ①国際協力助成企画

企画内容	予算	執行額
(全国大学生協連) ICAアジア太平洋地域・教育機関協同組合委員会主催 教育機関協同組合のワークショップ・ウェビナー	400,000円	161,039円
合計	400,000円	161,039円

### ②一般公募助成企画

No.	組織名	事業名(相手国)	助成決定額	執行額
1	【新規】 認定特定非営利活動法人 Hope and Faith International	ヌワコット郡ビドール市第七区での、山羊銀行による就 労支援活動(ネパール)	916,446円	916,446円
2	【新規】 特定非営利活動法人 フェア・プラス	ものづくりの支援を通じた、フィリピンの伝統を受け継 ぐ山村の人たちの台風被災とコロナ禍からの暮らしの 再生(フィリピン)	1,000,000円	1,000,000円
3	【3年目】 特定非営利活動法人 幼い難民を考える会	保育者の保育技術向上と運営メンバーの能力強化によ る「村の幼稚園」の自立支援(カンボジア)	832,976円	832,976円
4	【新規】 フィリピン日系人 リーガルサポートセンター	日系人会を拠点とした、小型太陽光発電装置「リッター・ オブ・ライト」の技術習得ワークショップ(フィリピン) ≪新型コロナウイルス感染症の影響により活動期間を1 年延長しました≫	887,000円	0円
5	【3年目】 特定非営利活動法人Colorbath	サルシュカルカにおける、コーヒー生産者組合の設立・ 運営支援を通じたコミュニティの経済力向上・人材育成 プロジェクト(ネパール)	1,000,000円	1,000,000円
6	【2年目】 特定非営利活動法人 アジアキリスト教教育基金	ノンフォーマル学校を通じたマイクロファイナンス・パ イロットプロジェクトのための貯蓄・融資グループ組織 化・組織強化事業(バングラディッシュ)	1,000,000円	1,000,000円
7	【新規】 一般社団法人 Piece of happiness	フィリピンにおける自閉症・発達障害児への療育事業 (フィリピン)	800,000円	800,000円
8	【新規】 Share the Wind	リエンボン村縫製技術支援プロジェクト(カンボジア)	800,000円	800,000円
	合計		7,236,422円	6,349,422円

※応募書類受付順



# 全国大学生協同組合連合会

## ICA アジア太平洋地域・ 教育機関協同組合委員会主催教育機関協同組合の ワークショップ・ウェビナー

オンライン開催

助成額 40万円

### 活動・事業報告

教育機関における協同組合は、引き続きコロナ禍の影響を大きく受けており、大学をはじめとした教育機関がコミュニティから疎外されてしまうリスクにもさらされている。

こうした状況の中、ダイナミックな行動力を持ち、学生生活の中での様々な構成員の参加を受け入れ、地域社会とも意味ある取り組みを進めていくために、各国の連携をするためのイベントとしてワークショップをウェビナーにて開催。

コロナ禍で渡航が厳しい中、年間に数回オンラインでのワークショップを持ち回りで開催した。

以前のように年に一度の開催ではなく、数か月に一度ワークショップを行い情報交換をし、お互いの活動を知り得ることができた。

### 活動の成果

コロナ禍でのオンラインの開催となり、対面で開催していたときに比べてコミュニケーションが難しい状況の中、助成金を活用させていただき、準備会議などを含めた当日の同時通訳費用を支出することができた。海外の活動をよりよく理解することができ、また日本の活動の様子も生き生きと伝えることができた。アジア太平洋地域はもとより、グローバルな教育機関協同組合の中での日本のプレゼンスを高め、また活動の発展に寄与することができた。

### ● 助成金の使用用途

● 同時通訳費用 ..... 161,039円

コロナウイルス感染症の流行のため、当初予定していた現地の大学生協や関連施設の視察は行えず、40万円の助成金のうち実際は同時通訳費用の161,039円のみ支出となった。

### WEBINAR REPORT!

#### 開催日

2021年4月15日

#### ウェビナー「COVID-19後の教育機関における協同組合の可能性」

- ICEI ショートフィルムコンテスト受賞作品上映会
- インド、イラン、日本、マレーシアが各国のCOVID-19の中での教育期間の状況とそれぞれの生協の経営状況・対策について意見交換を行った。

TIME	PROGRAM	NOTES
1:00pm	Inauguration Speech by Dato' Abdul Fattah Abdullah President of ANGKASA / ICA-AP Regional Board	MC: Simren
2:15pm	Screening of the ICEI's Short Film Competition Winners Video	MC: Simren
2:40pm	ICEI Webinar <i>Opportunities for cooperatives in educational institutions post COVID-19</i> Moderator: Dr. Noraini Mohamad Speaker: Dr. C. Pitchai Prof. & Head, Dept of Cooperation The Gandhiram Rural Institute, India Speaker: Ms. Anahita Eslahpazir CEO, Rah - E - Roshd Cooperative Education Complex Iran Speaker: Mr. Ichiro Nakamori MD & CEO, NFUCA Japan Speaker: Prof. Dr. Wan Mohtar Wan Yusoff, Chair, Koperasi UNIKEB Berhad Malaysia	Moderator: Dr. Noraini Mohamad
3:40pm	Q & A Session	Moderator: Dr. Noraini Mohamad
4:15pm	Appreciation Remarks by Dr. Mohd Azlan Yahya Vice President, ANGKASA / Chair, ICEI	MC: Simren

当日の発表者のリスト



実施組織よりひと言

コロナ禍におけるグローバルな教育機関の協同組合と連携し活動の発展にも寄与しています!

#### 開催日

2021年6月21日

#### ウェビナー「COVID-19後の教育機関における協同組合の可能性」パート2

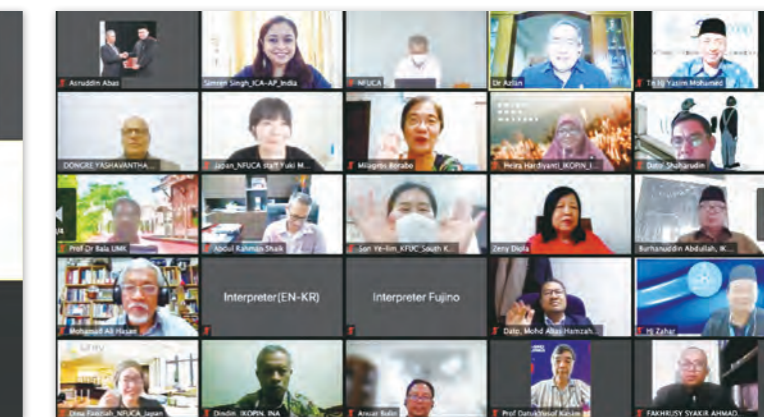
- 前回から継続し、COVID-19の中での教育期間の状況とそれぞれの生協の経営状況・対策について日本、インドネシア、フィリピン、韓国からのプレゼンテーションと報告を受け意見交換を行った。
- 2回の交流を受け、各国のCovid-19への対応、学生のために必要な支援、経営的にも厳しい中でもお互いの状況を確認し、励ましあう場となった。



当日のポスター



「COVID-19後の教育機関における協同組合の可能性」パート2の発表者



「COVID-19後の教育機関における協同組合の可能性」パート2の参加者

PICK UP  
特に重視しているSDGsの目標はこの2つ!



**Opportunities for Co-operatives in Educational Institutions Post COVID-19** Part 2  
Celebrating the International Day of Co-operatives by Rebuilding Better Together

A webinar by ICA Asia and Pacific Committee on Cooperatives in Educational Institutions (ICEI) in collaboration with the National Federation of University Co-operative Associations (NFUCA, Japan)

Mr. Ichiro Nakamori  
Managing Director and CEO  
National Federation of University Co-operative Associations (NFUCA) Japan

Dr. Burhanuddin Abdullah  
Rector, Institute of Co-operative of Indonesia (IKOPIN) Indonesia

Dr. Milagros Lim-Borabo  
Former Program Director, Professional and Continuing Education (PACE) of Centro Escolar University  
Former Chairman of Centro Escolar University Credit Co-operative Philippines

Ms. Son, Ye-Lim  
Hankuk University of Foreign Studies  
University Co-operative Student Committee Member  
Korea Federation of University Co-operatives Student Committee Core Member  
South Korea

Monday, June 21, 2021  
3:00 - 5:00 pm Tokyo time / 1:00 - 3:00 pm Jakarta time / 11:30 am - 1:30 pm Delhi time  
CP: dina.faoziah@univ.coop

Registration <https://bit.ly/3pVTYSs>

COOP UNIV CO-OP

# ヌワコット郡ビドール市第七区での、 山羊銀行による就労支援活動



認定特定非営利活動法人

## Hope and Faith International

実施国 ネパール

助成額 91.6万円

### 申請の概要

首都カトマンズより西へ車で4時間のヌワコット郡ビドール市第七区にて、山羊を地元住民に貸し出す山羊銀行を設立する。住民は繁殖した山羊を販売し収入を得る。山羊銀行は、返却された子山羊を他の住民に貸し出し持続可能とし、売却益で就学支援を行えることも目指す。

### 事業の背景

プロジェクト当該地域のヌワコットは山間部で、農業(稲作)を中心産業とする。しかし、米による現金収入は少なく、男性は海外に出稼ぎに行き、女性や子どもたちがその稲作の主要な働き手となっている。HFIは、2013年より、この地域の子どもたちに奨学金を提供し、就学支援活動を続けてきたが、地域社会が自立し、持続可能となる援助のためには、地場産業の育成がより効果的であるとの結論を得た。そこで、現地住民と話し合い、取り組みやすさ、収益性、将来性などを考え、既に現地で一般的に行われている山羊を飼うことにより増収を目指すことになった。



活動報告

村人たちが手伝ってくれ、山羊小屋を建設小屋内に仕切りがあり子ども山羊と親をわけるように工夫



獣医による治療。皮膚の感染症からこのオスとメスの山羊は死亡してしまった



参加農家のトレーニングの様子



成長



鶏を育て、売買し、新しい山羊を購入



佐々木 美佳子 事務局長

実施組織よりひと叫

山羊の収益で貧困地域の就学・生活自立支援を行っています!

PICK UP

特に重視しているSDGsの目標はこの4つ!



### 活動の成果

山羊銀行の山羊が感染症にかかり2匹死亡したが、にわとりを売り1匹新しい山羊を購入できた。貸し出した5農家中、4農家に赤ちゃん山羊が誕生した。母子ともに健康に成長している。日本では家畜改良センターへ訪問し山羊や飼育環境について勉強する機会をもてた。現地 NGO は適宜貸し出し農家を訪問し、状況と写真をアップデートしている。また、山羊の感染症が流行していたため、11月に契約するはずであった2回目の貸し出し農家の選出と研修、契約、貸し出しが遅れたが2月に行うことができた。

### 今後の課題

ネパールの農家で飼育環境や餌の問題を解決したい。ネパールの山羊は、日本の山羊(日本ネーザン種)に比べ、とても体格が小さいという事情がある。ネパールで手に入り、かつ栄養価の高い牧草を育て、飼育環境の改善が必要。母山羊の月齢が低く、出産経験のない山羊であったので、多胎で生まれたのが1農家だけとなった。農家としての収入を向上させるまでには至っていないが、今後、繁殖の経験を積み販売することで、収入につなげたい。

### 助成金の使用用途(一部抜粋)

- 山羊メス10頭の一部 …… 16.4万円
- 山羊薬代 …… 1.9万円
- 飼育山羊小屋建設材料費 …… 4.8万円

### 2021年

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

### 2022年

1月

2月

3月

山羊飼育マニュアル作成 農家選別 トレーニング



山羊飼育マニュアル

山羊小屋の建設 完成

オス山羊を購入・貸出。山羊が感染症に罹患。

日本の牧場で山羊の飼育を学ぶ



感染症の流行によりにわとりや山羊が死亡

日本での山羊飼育の研修

独立行政法人家畜改良センター茨城牧場長野支場

11月・12月・2月に山羊の赤ちゃんが誕生

新しい5農家に研修を行い契約、山羊を配布

日本での小規模牧場の見学

山形県上山市蔵王マウンテンファーム

最終報告書の提出

# ものづくりの支援を通じた、フィリピンの伝統を受け継ぐ山村の人たちの台風被災とコロナ禍からの暮らしの再生

特定非営利活動法人  
**フェア・プラス**

実施国 フィリピン 助成額 100万円

## 申請の概要

天然素材の繊維を採り、古くから村に伝承される技法で繊維を編み上げて製品を作り暮らしてきたフィリピンの貧しいマリナオ村は、相次ぐ超大型台風とコロナ禍により非常に厳しい状況に追い込まれた。素材の木の植林、村人たちの伝統技法の学び、製品作りへの支援を行うことにより、収入の安定、生活の再構築を図る。

## 事業の背景

フィリピンの山村マリナオ村の人たちは、群生するアバカの木を繊維を編み、日用品などを作り生活の一助としてきた。当団体はフェアトレードを通じた生活支援を、援助を訴えて商品を販売するのではなく、天然素材の美しさと村の伝統技法の繊細さを生かした質の高い商品をデザイナーの協力を得て開発し、百貨店等で販売してきた。和服にマッチしたアバカ製名古屋帯は、多くのファッション誌等でも紹介され、村人への生活支援に貢献している。

マリナオ村は、2019年末超大型台風により甚大な被害を受け、2020年3月からのコロナ禍によるロックダウンにより日々の食事にも苦勞する生活に追い込まれてしまった。

### 活動報告

台風による家屋の被害



倒壊したアバカの木



天日干しするアバカの繊維



少人数でのアバカの植林を進める



ロックダウン緩和後は、少人数でのマクラメ編み技術のトレーニングを再開

マクラメ編みは大変細かく根気のある作業



助成金でミシン3台を購入



日本の大手婦人誌での製品の掲載や百貨店、着物専門店での販売



## 活動の成果

アバカの植林については、少人数で行い最低限の目標500本の植林を達成できた。マクラメ編み技術向上のトレーニングは、アバカ繊維の特性、マクラメ編み基礎編、中級編、縫製技術などのカテゴリーに分けてトレーニングを実施し、生産者一人一人の技術向上に結びつくプログラムを計画して進めることができた。

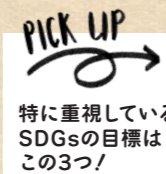
これらの取り組みにより、村の人たちには日本から村の人たちの生活の再建のため支援を継続して行っている人間がいることを知ってもらえ、村の人たちを勇気づけることができた。

## 今後の課題

マリナオ村のアバカ製品を買い支えてきたが、コロナ禍により買い支えにも限界に来ている。2022年に向けて日本国内での販売拡大のため、新たな取引先の開拓などを進めている。この取り組みの成果次第で、マリナオ村の人たちの生産と生産者のモチベーション維持に大きく影響してくると思う。フィリピン国内および欧米向け輸出の支援にも取り組む必要がある。アバカの植林については、当初2年間で2千本の苗木を植林する計画でいたが、2021年は500本の植林を行うにとどまった。そのため、期間を3年計画に見直し、粘り強く植林を進める必要がある。

## 助成金の使用用途 (一部抜粋)

- ・ミシン ..... 9.1万円
- ・アバカ繊維、マクラメ編み治具 ..... 14.7万円
- ・植林のための機材、苗木 ..... 9.7万円



## 2021年

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

## 2022年

1月

2月

3月

日本と現地の生産者と今年度の計画の打合せ



マクラメ編みトレーニングの再開

コロナのため屋外で実施

京都で「藤織り」との共同展を開催



ア克蘭州カリボ市で開催された PRODUCT EXPO へ出展

クラウドファンディングを行った資金により11月、12月に感謝祭とクリスマスのお祝いの食材の提供

オミクロン株による新型コロナ感染が急拡大し、マリナオ村の活動を再び停止

アバカ植林前の整地、植林、肥料の散布

苗木の準備、植林作業の再開、肥料の散布

最終報告書の提出

# 保育者の保育技術向上と運営メンバーの能力強化による「村の幼稚園」の自立支援

特定非営利活動法人  
**幼い難民を考える会**

実施国 カンボジア 助成額 83.9万円



関口 晴美 代表理事

実施組織よりひとこと  
学ぶ喜び、仲間と成長できる楽しさは保育者たちにとって、なにより力になります！

PICK UP  
特に重視しているSDGsの目標はこの2つ！

4 質の高い教育をみんなに

17 パートナリシップで目標を達成しよう

## 申請の概要

2011年より、一人でも多くの子どもが幼稚園に通えるよう「村の幼稚園」事業を行っている。本事業は幼稚園を求める村からの依頼を受け、地域の幼児教育行政とも相談しながら、継続運営する契約を締結した上で「村の幼稚園」を開設する。開設後3年間は当会が保育活動を支援し、4年目から村が自主運営を行う。「村の幼稚園」が地域で継続運営されるには、保育者の知識・保育技術向上が重要である。

## 事業の背景

カンボジアでは就学前教育の普及を図っているが、保育者の育成が追いついていない。地域の幼稚園では、村の住民から選ばれる保育の専門知識や技術を持たない保育者がほとんどである。

当会が開設して地域に移管する「村の幼稚園」では、独自の事前研修や3年間のモニタリングに加えて、教育省の地域幼稚園のスタンダードを学ぶ研修を実施し、保育者のみならず、幼稚園をサポートする役割を担う地区の女性と子ども事業担当者にも参加してもらい、地域を巻き込んでの保育者育成、幼稚園運営につなげている。研修を毎年継続して、質のよい保育を提供する地域の幼稚園を増やしていきたい。



活動報告

プロポーザブル村の幼稚園が、地域での自主運営に移行



研修で学んだとおり、子どもたちの手をとって一緒に鉛筆を動かす子どもたちは学ぶことで、ルールを守り、乱暴な言葉使いが減少



家庭を訪問し、子どもと保護者に教材の使い方を説明するコンボンバスロタボン村の保育者



ブレク・クンロン村で新しく開園する「村の幼稚園」の園舎とトイレが完成



村の委員会が地区評議会と一緒に幼稚園を運営することの確認打合せ。張り切っている表情が現れている

## 活動の成果

COVID-19感染拡大防止のために休園となっても、家庭で保護者が子どもを教えることができるよう、親子で実践しやすいカリキュラムを編成した。わかりやすい教材を製作して配布することができたので、子どもたちも文字や数字に親しむ機会が途絶えることなく、保育活動が継続された。保護者からは「村の幼稚園」に通い、同年代の友だちと一緒に保育知識をもった保育者から適切な保育を受けることの大切さを再認識したという声が多く聞かれた。また、6月～8月のモニタリングを通して、各「村の幼稚園」の保育者が抱える保育スキルや計画・記録の作成などの課題が具体的に把握できた。2021年度地域幼稚園のスタンダードに認可され、保育者は直接政府から給与が支払われる。

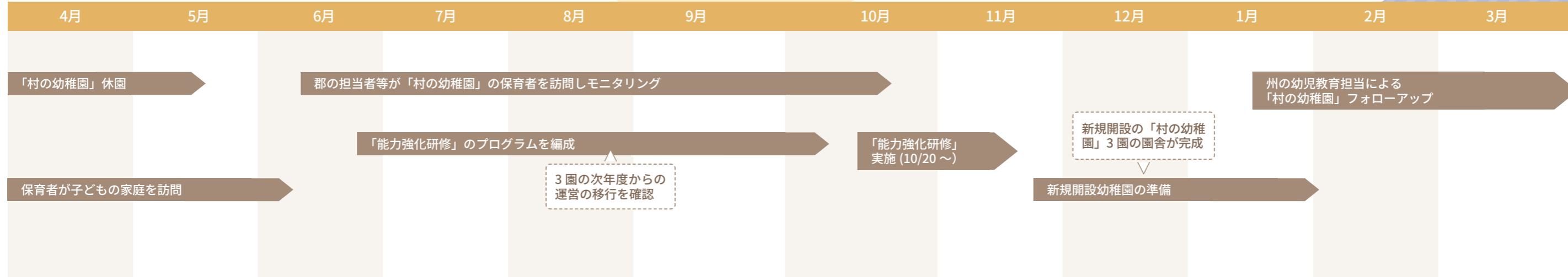
## 今後の課題

自主運営に移行したあとも幼稚園が長期的に継続運営されるために、幼稚園の運営委員会メンバーが問題を解決する能力を身につけることが大切。

## 助成金の使用用途（一部抜粋）

- ・コアトレーナー手当・交通費 …………… 12.2万円
- ・モニタリング手当 …………… 1.4万円
- ・研修用文具・消耗品 …………… 2.2万円

## 2021年



## 2022年

# ネパールサルシュカルカにおける コーヒー生産者組合の設立・運営支援を通じた コミュニティの経済向上・人材育成プロジェクト

特定非営利活動法人  
**Colorbath**

実施国 ネパール 助成額 100万円

## 申請の概要

サルシュカルカ村のコーヒー産業、コーヒー農家を支援することを通して、コミュニティ全体の経済力、人材力の向上を図る。そのために、外部専門家による農家への技術移転や農家同士が連携し、技術を高めていけるようなコーヒー生産者組合の組織化と円滑な運営をサポートする。また、ネパール国内での事業の横展開を行う。

## 事業の背景

ネパールの山間部では、農業以外に目立った産業がなく、十分な現金収入を得ることが難しい。そのため、経済的な理由から学校に行っていない子どもが多い。

プロジェクト3年目となる2021年度は、生産者組合を本格的に機能させることを目標とした。個々の農家だけではできない、生産の効率化、品質の向上、販売体制の構築を実現し、コミュニティ内の農家同士のつながりをより強固なものにしていくことを目指す。また、これまで2年かけて取り組んできたコーヒーの木からの収穫、精製、そして販売までのコーヒー産業のプロセスを農家とともに実際に進めていく。販売まで到達することで、収入源の1つとしてのコーヒーづくりに農家がより実感を持って取り組むことができるようになると思う。当該地域におけるコーヒー生産が4～7年目以降も続いていくための基盤を固める重要な1年である。



スマホ1台で複数の農家さんとオンラインでヒアリング



定期的なモニタリングによる農家さんとの関係強化



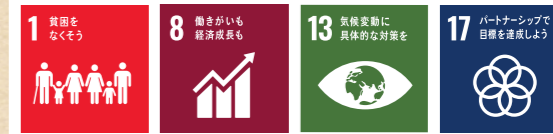
吉川 雄介 代表理事

実施組織よりひとこと

丁寧に手作りで育てられたコーヒーを通して、ネパールの人と自然の豊かさが、多くの人々に届くよう、これからもサポートを続けます！

PICK UP

特に重視しているSDGsの目標はこの4つ！



## 活動の成果

現地の組合としての結束やコミュニケーションが促進され、組合機能の活性化を図ることができた。フォローアップの頻度を増やし、組合の中心メンバーの知識や技術を高めることができた。品質評価トレーニングや精製指導を通して、組合主導でコーヒーの品質を高める仕組みをレクチャーできた。また、先進事例組合の視察や組合施設の整備を行ったことで、今後の生産量増加に向けて組合基盤を強化することができた。

## 今後の課題

今年度は、コーヒーの品質向上のため、品質管理の大切さについて学んでもらうべく、村のリーダーに精製体験に取り組んでもらった。しかし、村全体での品質向上には農家さん全体への知識・技術の定着が必要である。そのためにも、今後は、生産者組合内でのデータの蓄積やノウハウの共有、基準の明確化などを強化する必要がある。

事業の持続可能性事業を5年、10年と継続的なものにするために、販路の確保は必要不可欠である。また、販路が見つかったときに、安定した生産体制が取れていることも重要である。今後も、組合メンバーとのコミュニケーションを取りながら、サポートを続け、他の地域でのモデル展開も目指していく。

## 助成金の使用用途 (一部抜粋)

- ・コーヒー豆乾燥棚 …………… 4.7万円
- ・コーヒーの果肉除去機2台 …… 11.2万円
- ・マニュアル制作印刷費 …………… 15.0万円



コーヒー農家への視察  
苗作りや乾燥の方法を学ぶ



生育のよいもの(左) 虫害でダメージを受けたもの(右)



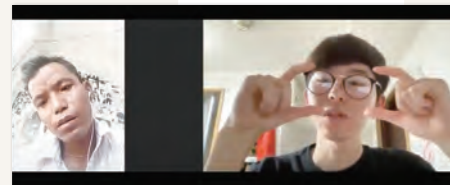
カウンターパートによるネパール語での指導

## 2021年

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

組合メンバーとカウンターパートと現地の状況確認と今年度の計画協議

カトマンズ郡  
コロナウイルス感染症の流行のため5/13まで行動規制



土砂崩れが発生、村への道が通行止めに

モニタリング・トレーニングの実施

苗の植える時期が遅れることから今年度の苗植を断念



苗床の管理も継続



乾燥棚の設置候補地を検討

乾燥棚の設置候補地を検討



モデルファームの視察

最終報告書の提出

# ノンフォーマル学校を通じた マイクロファイナンス・パイロットプロジェクトのための 貯蓄・融資グループ組織化・組織強化事業

特定非営利活動法人  
**アジアキリスト教教育基金**

実施国 **バングラデシュ** 助成額 **100万円**

## 申請の概要

1年次に開始した「ノンフォーマル学校<sup>\*</sup>」においてグループを形成して実施するマイクロファイナンス・パイロット事業の継続と拡大のための、グループ形成および研修事業を実施し、運営体制のモニタリングと成果の検証により、パートナー NGO の政府認可取得を目指し本格的なマイクロファイナンス事業の展開を図る。

※ 公立学校の無い地区で NGO が運営する学校。公立学校同様に授業料は無料で政府の教科書とカリキュラムを使うことが多い。

## 事業の背景

バングラデシュは、近年年率8%近い経済成長率を達成し、中所得国入りを果たしている。30年前には35%程度であった識字率も改善され小学校の入学率は95%にまで達している。しかし、人口の1/3は貧困ライン以下の生活をし、小学校を終了して中学校に進学する割合は60%に満たない。貧困家庭においては児童も貴重な労働力であり、小学校の途中で勉強を断念したり、中学校へ進学せずに働きに出ることが多い。政府の方針による学校給食の導入や、中学校への進学について視野に入れた活動を取り入れて一部家計でも負担が可能になるよう、生徒の家庭の生計向上を進めたい。

**活動報告**

融資により小学校の前で駄菓子屋を始めた未亡人女性

ミシンを購入して縫製を始めた女性

渡し舟(中古)を購入し二人の娘の教育費を稼ぐ女性

**融資の利用事例**  
メンバーになると毎週最低50タカ(≒62.5円)を貯蓄。グループ(ショミティ)で取りまとめてBDP(カウンターパート)が銀行口座で管理します。この貯蓄も融資のための原資となります。(金利6%)



小田 哲郎 事務局長

実施組織よりひとこと  
すべての子どもたちが教育を受けることができるよう、マイクロファイナンス事業を進めています!

**PICK UP**  
特に重視しているSDGsの目標はこの3つ!

- 1 貧困をなくそう
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう

## 活動の成果

融資が開始されてから1年が経った。ダッカのスラム地区の一部の住民がロックダウン中に田舎に帰り返済が滞っている。一部のメンバー以外は返済が進んでおり99%の返済率である。融資と回収、預金積立のルーティーンの業務を問題なくこなせるようになった。マイクロファイナンスの導入支援をするNGOの専門家による現地評価調査を通して、地区オフィスレベルでの運用状況と帳簿の記帳についても、問題がないことが確認された。融資を受けた女性たちはそれぞれ自分のできそうなビジネスを始めており、回収率からは返済可能なレベルでの利益が得られていると考えられる。



村人とのコミュニケーションの実習研修



帳簿の確認も行う



グループへの聞き取り調査(ジャマルプル地区)

## 今後の課題

現在の規模では帳簿類を手書きで行っているが、融資が拡大する際にはコンピュータプログラムを導入する必要がある。最初に融資を受けた女性たちはそれぞれにビジネスを始め、2回目のローンを借りている人もいる。一方で、融資を受けるまでに時間がかかり、退会したメンバーがいることがわかった。また、当初は小学校の生徒の保護者という条件で始めたが、すでに卒業やドロップアウトした生徒の親もメンバーとして継続している。今後の運用ルールの確認が必要である。

## 助成金の使用用途(一部抜粋)

- ・エリア・オーガナイザー人件費 …… 10.0万円
- ・再研修費用(会場・人件費) …… 5.1万円



# フィリピンにおける 自閉症・発達障害児への療育事業



一般社団法人

## Piece of happiness

実施国 フィリピン

助成額 80万円

### 申請の概要

フィリピンは貧困等で、療育を受けられずにいるまたは、学校に通えない自閉症・発達障害の子ども（6歳～15歳くらい）が数値では表せないほど存在し、市が実態を把握していない。少しでも、その子どもたちが将来社会で生きていく力や働く力を身に付けられるように、日本の療育スキルを提供していきたい。

### 事業の背景

日本においては当たり前となりつつある自閉症や発達障害児への早期療育が、他の国においてはまだまだ福祉制度自体が確立されていない実態がある。フィリピンのダバオ市、セブ市で、学校に通えない子どもたちも多数いる中で、自閉症や発達障害であろう子どもたちは受診すらできていない現状を視察した。市役所もドクター側でも人数に関しては把握できていない。日本の様に教育制度があり支援学校もあるものの実際には貧困で学校の制服が買えない、お弁当やおやつを持っていけない理由から学校に通わず家にいる子どもたちが多々いる。また療育施設に関しては私立の福祉施設はいくつかあるものの貧困層の子どもたちは月謝が高すぎて払えないために通わせられない。福祉制度がない為に支援する側においても日々ギリギリの経済状況で施設を運営している現状と双方課題が山積みである。

**活動報告**

フェイスガードを手にして喜ぶ子どもたち  
フェイスガードは現地ではあまりみられない



フェイスガードを手にして喜ぶ子どもたち  
フェイスガードは現地ではあまりみられない

台風で大きな被害を受けた子どもたちの学校となる建物資材の調達も遅れ復旧がいそがれる




千葉 寿美江 代表理事

実施組織よりひと言  
一人一人の特性に合わせた療育プログラムを届けてフィリピンの子どもたちに笑顔を！



特に重視しているSDGsの目標はこの3つ！



### 活動の成果

コロナや台風の影響で当初の予定を大幅に変更することになったが、今後、子どもたちの療育に必要な教材や支援物資を現地に届けることが出来た。それに伴い、コロナ感染対策の子ども用マスク・フェイスガードを子どもたちへ配布できた。また炊き出しを行なったことで、通常の貧困に加え、コロナ、自然災害による行動制限で消えつつあった子どもたちの笑顔を一時でも取り戻すことができて良かった。

### 今後の課題

コロナの影響で当初の予定を大幅に変更することになったうえ、年末の台風被害や大統領選挙に伴い地方選挙も行われるとのことで、副市長や市との情報交換ができないままになってしまった。これから、渡比することが可能となれば現地に行き、実行できなかった計画を遂行したい。課題点としてコロナはもとより、まだ台風による被害の復旧活動が終わっていないため（3月末の時点で水道も復旧していない現状）当面は復旧が最優先される。メインの建物の屋根の破損や裏庭の倉庫や別棟もなくなってしまったので、まずは子どもたちを受け入れる環境を整えていく必要がある。子どもたちが安心して療育が受けられるよう、環境や体制を一日も早く整えていきたい。

### 助成金の使用用途（一部抜粋）

- 炊き出し代 …………… 10.9万円
- フェイスシールド …………… 2.0万円
- 郵送料・関税 …………… 4.4万円



炊き出しの様子

炊き出しで、自宅にこもっている子どもたちや親を呼び寄せ、状況を聞き養育が必要な子どもの情報を集める。貧困な状況では病院に行けないので、ただ文字が読めないだけなのか、障害があるのかの線引きが難しく、話を聞いて、支援が必要かの判断を行う

150食を用意  
約140名が集まった

子どもの集まりやすいメニューを工夫して準備



### 2021年

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

現地スタッフ、カウンターパートとミーティング

新型コロナウイルスの影響が濃く事業が進めることができず状況を様子見（～9月まで）

活動ができないため助成金の利用計画を教材や机椅子の購入から、ミシン、マスク作成用品の材料に変更申請し、取り急ぎマスク作成資材、子ども用フェイスガードを購入



物品を日本から発送

教室開催のPR活動

史上最大の台風がセブ地方南部に上陸。建物被害に電気・水道のライフラインが完全にストップ

炊き出しを開催

台風被害の復旧作業、電気のみ復旧

物品の現地到着

最終報告書の提出

### 2022年

1月 2月 3月

# リエンポン村縫製技術支援



## Share the Wind

実施国 カンボジア 助成額 80万円

### 申請の概要

カンボジアの農村部では貧しさにより子どもたちが学業を断念し、10代で劣悪な条件下での出稼ぎに生計の道を求めざるを得ないケースが見られる。この活動では義務教育半ばで学びを諦めた女性が、スキルを身につけ村の中で自立して暮らせることを目標に、縫製技術の習得支援と工房の運営を行う。

### 事業の背景

当団体は約10年前、現地に小学校を建設。その後村の暮らしを見守る中で、保護者が子どもを村に残して出稼ぎに行かざるを得ず、残された子どもが家事労働等に追われて学校をドロップアウトする現状を多く見てきた。安定した学びのためには「子どもたちが親と一緒に暮らせること」が必要と考え、主に保護者を対象にした「農業事業」で村での就労支援を行っている。「縫製技術習得支援」は、学業の継続が困難な若い女性を主な対象としたもの。カンボジア国内は目まぐるしい速度で経済成長を遂げており、都市と農村部の経済格差、教育格差はますます広がりがつつある。そうした中で、村の子どもたちの学びを大人たちがしっかりと守ること。また学ぶ機会を失った若者にも自立の手立てをサポートしていくことが大きな課題となっている。

### 2021年

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

### 2022年

1月

2月

3月

ミシン・タブレットを購入  
説明会を行い縫製技術習得のカリキュラムを作成

ロックミシンや生地を日本から送付

製図と手順のマニュアルを作成

課題のレベルアップ

販売に向けての意識作り（最終課題開始）

最終課題作品のプレゼンテーション

最終報告書の提出



助成金で整った工房



ミシンを購入  
使い方の説明会を  
行い実習開始

作品の数々

- 課題1 布と糸の選択
- 課題2 直線縫い
- 課題3 エコバック製作
- 課題4 カフェエプロン製作

レベルアップ!!

- 課題5 刺繍ポケット付き肩掛けバッグ製作
- 課題6 ファスナー付きのトートバッグ製作
- 課題7 小型トートバッグ製作
- 課題8 「子ども」をキーワードに  
生地・デザインも自由に選択し製作



生地の見本で  
特徴を伝える

チクライン郡  
教育局やシェムリアップ州  
労働局との連携のため  
行政機関を訪問



岡本 昌子 工房担当



オンライン環境を整え  
リモートで学ぶ

### 活動の成果

製作途中の状態を日本からオンラインで把握し準備した出来上がりサンプルや手順書を現地へ送ることで、縫製の基本を細かく伝えることができた。メンバーのうち過去に1年間、現地の技術者から縫製を学んできた3名の技術習得はめざましく、新メンバー2名をサポートしながら実技を言語化して伝えることで、さらにステップアップする様子が伺えた。オンラインの指導を通してそれぞれが自分の考えを言葉で伝えるようになったこと、わからないことをメールで質問してくるようになったことから、メンバーの成長が実感できる。言葉でのやり取りを覚えれば、オーダーで相手の希望を聞いたり、提案することもできるようになる。チームリーダーを中心にお互いの問題をフォローしあい、工房がまとまってきたことは大切な成果といえる。

### 今後の課題

自分で考え、試行錯誤しながら答えを見出していく姿勢を育んでいきたい。現時点では、指示されたことはできるが自分で積極的に工夫する態度が乏しい。そのため、なるべくHow toで教えるのではなく、失敗してもやりながら自ら気づいていけるよう、また迷うときはメンバーで話し合い試しながら解決していけるように指導することが重要である。

### 助成金の使用用途（一部抜粋）

- ミシン2台 ..... 14.9万円
- 刺繍の基本指導（サンプル製作代を含む） ..... 3.7万円
- タブレット2台 ..... 5.0万円



# 2021年度の財務関係報告

## 1 2021年度の基本財産と一般正味財産

### (1) 基本財産

- ① 2021 年度期首残高（2021 年 4 月 1 日）…………… 879,443,787 円
  - ② 2021 年度内基金修正等…………… △ 30,557 円
- ※上記金額は満期保有目的の債券の取得価額と額面金額の差額を償却原価法（定額法）によって処理した金額です。
- ③ 2021 年度期末残高（2022 年 3 月 31 日）…………… 879,413,230 円

### (2) 一般正味財産の増減

- ① 2021 年度期首（2021 年 4 月 1 日）…………… 30,152,023 円
  - ② 2021 年度期中の増減…………… 385,491 円 増加
- ・ 増加合計…………… 15,096,451 円
  - 受取利息…………… 15,096,451 円
  - ・ 減少合計…………… 14,710,960 円
- i ) 国際協力助成金（1 企画）…………… 400,000 円
  - ii ) 一般公募助成金（7 企画 + 期間延長 3 企画）…………… 8,788,161 円
  - iii ) 基金運営費…………… 739,503 円
  - iv ) 活動報告書作成費・送料…………… 1,183,450 円
  - v ) 事務管理費…………… 3,599,846 円
- ③ 2021 年度末残高（2022 年 3 月 31 日）…………… 30,537,514 円
  - ④ 2022 年度期中の受取利息見込額
- 有価証券および定期預金の運用により、約 1,510 万円の収益を見込んでいます。

## 2 2021年度の助成事業の執行状況

2021 年度助成事業の執行状況は以下のとおりでした。

国際協力助成企画は、全国大学生協連の 1 企画のみの申請となり、40 万円を助成しました。この企画の実際の執行額は 161,039 円で、助成金の残金の返却が 2022 年度となったため、決算上の執行率は 100%となっています。

一般公募助成企画は 2021 年度の助成を行った 8 組織のうち 7 組織が事業を遂行しました。1 組織（フィリピン日系人リーガルサポートセンター）は、期間を 1 年間延長し 2022 年度に事業を行います。また、2020 年度に活動が行えず 2021 年度に期間を延長した 3 組織もあり、繰越額も入れた予算 1,060 万円のうち、8,788,161 円が執行されました。執行率は 82.9%でした。

助成成果確認事業は、新型コロナウイルス感染症流行のため実施を見送りました。基金運営費は、アジア生協協力基金運営委員会の開催経費等として 1,922,953 円（予算 150 万円）が支出されました。これには全ページをカラーにしました「アジアに架ける虹の橋」の製作費等（約 118 万円）が含まれます。また、事務管理費は 3,599,846 円（予算 400 万円）でした。支出の合計額は 14,710,960 円、予算執行率は 73.6%でした。

	2021年度予算	2021年度決算	執行率
国際協力助成企画	400,000円	400,000円	100.00%
一般公募助成企画	10,600,000円	8,788,161円	82.91%
助成成果確認事業	3,500,000円	0円	0.00%
基金運営費	1,500,000円	1,922,953円	128.20%
事務管理費	4,000,000円	3,599,846円	90.00%
合計	20,000,000円	14,710,960円	73.55%

## ▶ 2021年度 助成費明細

内訳	金額
① 国際協力助成企画	400,000円
全国大学生生活協同組合連合会	400,000円
② 一般公募助成企画	8,788,161円
認定特定非営利法人 Hope and Faith International	916,446円
特定非営利活動法人 フェア・プラス	1,000,000円
特定非営利活動法人 幼い難民を考える会	832,976円
NPO法人 フィリピン日系人リーガルサポートセンター	0円
NPO法人 Colorbath	1,000,000円
特定非営利活動法人 アジアキリスト教教育基金	1,000,000円
一般社団法人 Piece of happiness	800,000円
任意団体 Share the Wind	800,000円
(2020年度の繰越)	
特定非営利活動法人 イランの障害者を支援するミントの会	550,000円
一般社団法人 Think Locally Act Globally	1,000,000円
特定非営利活動法人 アーシャ=アジアの農民と歩む会	888,739円
③ 助成成果確認現地視察費用	0円
④ 基金運営費	739,503円
運営委員年間報酬	361,100円
運営委員会出席者 出席手当・旅費	324,584円
運営委員会関連費	38,749円
2022年度一般公募プレゼンテーション参加者旅費	0円
振込み手数料、送料、その他	15,070円
⑤ 2021年度活動報告書、ダイジェスト版作成費および送料	1,183,450円
⑥ 事務管理費	3,599,846円
生協総研 i) 人件費	3,114,927円
ii) その他管理費(家賃・OA機器・通信費・消耗品)	484,919円
合計	14,710,960円

## 3 2021年度の財務関係報告資料

## 貸借対照表 ※2022年3月31日現在

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
<b>I 資産の部</b>			
1. 流動資産			
普通預金	16,681,680	16,281,930	399,750
未収入金	2,506,800	2,506,800	0
定期預金	15,000,000	15,000,000	0
流動資産合計	34,188,480	33,788,730	399,750
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
普通預金	6,076,424	6,076,424	0
投資有価証券	873,336,806	873,367,363	△ 30,557
固定資産合計	879,413,230	879,443,787	△ 30,557
資産合計	913,601,710	913,232,517	369,193
<b>II 負債の部</b>			
1. 流動負債			
未払金	3,639,846	3,625,587	14,259
預り金	11,120	11,120	0
流動負債合計	3,650,966	3,636,707	14,259
<b>III 正味財産の部</b>			
1. 指定正味財産			
寄付金	879,413,230	879,443,787	△ 30,557
指定正味財産合計	879,413,230	879,443,787	△ 30,557
2. 一般正味財産			
一般正味財産	30,537,514	30,152,023	385,491
正味財産合計	909,950,744	909,595,810	354,934
負債及び正味財産合計	913,601,710	913,232,517	369,193

正味財産増減計算書 ※2021年4月1日～2022年3月31日

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減
<b>I 一般正味財産増減の部</b>			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	15,096,000	15,075,200	20,800
積立資産受取利息	15,096,000	15,075,200	20,800
雑収益	451	1,625	△ 1,174
受取利息	451	1,625	△ 1,174
経常収益計	15,096,451	15,076,825	19,626
(1) 経常費用			
人件費	3,114,927	3,198,116	△ 83,189
助成費・運営費	11,111,114	5,170,394	5,940,720
物件費	484,919	427,471	57,448
経常費用計	14,710,960	8,795,981	5,914,979
当期経常増減額	385,491	6,280,844	△ 5,895,353
2. 経常外増減の部			
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	385,491	6,280,844	△ 5,895,353
一般正味財産期末残高	30,152,023	23,871,179	6,280,844
一般正味財産期末残高	30,537,514	30,152,023	385,491
<b>II 指定正味財産増減の部</b>			
特定資産運用益	12,365,443	12,344,443	21,000
一般正味財産への振替額	△ 12,396,000	△ 12,375,000	△ 21,000
当期指定正味財産増加額	△ 30,557	△ 30,557	0
指定正味財産期首残高	879,443,787	879,474,344	△ 30,557
指定正味財産期末残高	879,413,230	879,443,787	△ 30,557
<b>III 正味財産期末残高</b>			
正味財産期末残高	909,950,744	909,595,810	354,934



炊き出しに並ぶ子どもたち  
(Piece of happiness)



カウンターパートからコーヒー豆の精製のポイントを学ぶ  
(Colorbath)

## 第2章

### 2022年度の活動計画

- 1 2022年度計画決定の経緯
- 2 2022年度事業計画
- 3 2023年度の一般公募について

## 第2章 2022年度の活動計画

### 1 2022年度計画決定の経緯

アジア生協協力基金では、毎年、その年度に想定される基本財産の利子相当分を財源とし、助成事業として①国際協力助成企画（日本生協連 全国大学生協連 医療福祉生協連が行う企画）、②一般公募助成企画の2事業を行ってきました。①の国際協力助成企画は2020年度までは日本生協連・国際活動委員会により起案されてきましたが、国際活動委員会の廃止に伴い、2021年度より日本生協連国際部および全国大学生協連と医療福祉生協連より起案され、生協総研にて取りまとめをしております。

2022年度の助成事業予算枠は、2022年度の一般公募を2021年9月より開始するために他の予算に先駆けて、生協総研第5回理事会（2021年6月4日開催）にて、国際協力助成企画に600万円、一般公募助成企画に700万円、会議費等に530万円の総計1,830万円の予算枠の承認を得て、募集を行いました。

国際協力助成企画では、1企画の助成の提案を決定し、一般公募助成企画では、2021年12月24日の書類審査、2022年1月29日のプレゼンテーション審査を経て、8組織に対する助成の提案を決定しました。

助成先が確定し助成額を総計した2022年度の事業計画と予算額は、改めて2022年2月8日に開催された生協総研第4回理事会で承認されました。

### 2 2022年度事業計画

#### (1) 国際協力助成企画

国際協力助成企画は通常年通りの600万円の予算を見込んでいましたが、2022年度は新型コロナウイルス感染症の影響で渡航の予定が立たないことから、日本生協連からの助成申請はありませんでした。2022年度は、医療福祉生協連の企画「協同組合の特徴を活かした医療・福祉事業、健康づくり活動の交流」（オンライン開催）に対して608,800円の助成を行うこととしました。

#### ▶ 2022年度国際協力助成企画一覧

相手国	企画名	助成額
韓国（開催国）	（医療福祉生協連）協同組合の特徴を活かした医療・福祉事業、健康づくり活動の交流	608,800円
		608,800円



第1回目の契約を行った農家の人たち (Hope and Faith International)

## (2) 一般公募助成企画

2022年度の一般公募は、2021年9月1日から10月31日まで生協総研のウェブサイトをはじめ、日本生協連会報・組合員活動情報、さらに東京ボランティアセンターや国際協力NGOセンター(JANIC)、日本財団(CANPAN FIELDS)などのウェブサイトへの掲示や新規でみやぎNPOプラザや大阪市市民活動総合ポータルサイトでも募集の案内を広報しました。この結果、19組織の応募がありました。

第3回運営委員会での書類選考で11組織に絞りこみ、そのなかから、第4回運営委員会(2022年1月29日開催)にてプレゼンテーション審査を行い、以下の8組織への総額7,595,180円の助成を行うこととしました。

## ▶ 2022年度一般公募助成企画一覧

No.	組織名	事業名	助成額
1	<b>2年目</b> 認定特定非営利活動法人 Hope and Faith International	ヌワコット郡ビドール市第七区での、山羊銀行による就労支援活動	995,180円
2	<b>2年目</b> 特定非営利活動法人 フェア・プラス	ものづくりの支援を通じた、フィリピンの伝統を受け継ぐ山村の人たちの台風被災とコロナ禍からの暮らしの再生	1,000,000円
3	<b>2年目</b> 一般社団法人 Think Locally Act Globally	スリランカにおける民族共生による貧困女性生計向上事業	1,000,000円
4	<b>3年目</b> 特定非営利活動法人 アーシャ=アジアの農民と歩む会	北インド農村女性の自立のための手工芸品マーケティングシステムの確立と生産・技術能力向上事業	1,000,000円
5	<b>新規</b> 一般社団法人 裸足醫チャンプルー	香辛料八角を中心とした山岳少数民族地域でのアグロフォレストリー振興と紛争地育苗場復興事業	1,000,000円
6	<b>新規</b> 特定非営利活動法人 アクセプト・インターナショナル	インドネシアにおける元テロリストの脱過激化・社会復帰事業	800,000円
7	<b>3年目</b> 特定非営利活動法人 アジアキリスト教教育基金	ノンフォーマル学校を通じたマイクロファイナンス・パイロットプロジェクトのための貯蓄・融資グループ組織化・組織強化事業	1,000,000円
8	<b>新規</b> 特定非営利活動法人アジアクラフトリンク	ミャンマー・バゴー市の木工産業振興のための人材育成とグループ化支援事業	800,000円
合計			7,595,180円

※応募書類受付順

また、新型コロナウイルス感染症の影響により 2021 年度の一般公募助成先の 1 組織に対し 1 年間の期間の延長を承認しました。そのため、フィリピン日系人リーガルサポートセンター（事業名：日系人会を拠点とした、小型太陽光発電装置「リッター・オブ・ライト」の技術習得ワークショップ）の延長の助成額 887,000 円を 2022 年度の予算に加え、一般公募助成企画の予算は 8,482,180 円としました。

### (3) 全体予算

助成額は、国際協力助成企画 1,008,800 円と一般公募助成企画 7,595,180 円、および前年度延長分の 887,000 円を加えた、合計 9,490,980 円です。

助成金総額は 949 万円、助成成果確認事業経費 350 万円、事業関連経費 215 万円、事務管理費 400 万円を加えて、1,914 万円を全体予算とし生協総研第 3 回理事会に提案し承認されました。

#### ▶ 2022年度予算

事業内容	2022年度予算	2021年度実績	2020年度実績
国際協力助成企画	1,008,800円	400,000円	75,972円
一般公募助成企画	7,595,180円	6,349,422円	4,268,339円
// 前年度延長分	887,000円	2,438,739円	0円
助成成果確認事業	3,500,000円	0円	0円
事業関連経費	2,150,000円	1,922,953円	826,083円
事務管理費	4,000,000円	3,599,846円	3,625,587円
合計	19,140,980円	14,710,960円	8,795,981円

\*事業関連経費 215 万円の内訳

- ・2021 年度一般公募助成成果報告会参加旅費等 (2022 年 4 月) 13 万円
- ・2021 年度活動報告書の印刷・送付費用 (2022 年 6 月) 100 万円
- ・2022 年度運営委員会会議費等 68 万円
- ・アジア生協協力基金活動報告会 15 万円
- ・2023 年度一般公募助成事業審査会参加旅費等 19 万円

\*事務管理費は、公益財団法人会計基準に基づいて計算しています。

### (4) 新型コロナウイルス感染症の影響

2021 年度は、2020 年度に助成を行った 3 組織が活動期間を 1 年間延長し、事業を行いました。同様に、2021 年度の助成先の「フィリピン日系人リーガルサポートセンター」は 1 年間期間を延長し、2022 年度に活動を行います。

委員会では、この例年のない事業の活動が困難な状況に配慮し、予算の使い方の変更や助成期間の 1 年間の延長を決定し、活動を支援しています。

### 3 2023年度の一般公募について

「2023年度の一般公募助成事業」については、アジア・太平洋地域における人々の協同事業の発展および地域コミュニティの課題解決をはかるための人材育成などを行う日本国内組織に対して、2022年9月1日から10月31日まで公募を行います。助成先は、運営委員会による書類審査、書類審査通過組織を対象としたプレゼンテーション審査を経て、2023年2月の生協総研理事会で決定いたします。

#### ● 募集要項の内容について（抜粋）

以下は募集要項（2023年度）の一部抜粋です。

応募資格をご参考いただき、詳細は生協総合研究所のウェブサイトをご覧ください。

アジア生協協力基金



アジア生協協力基金では、日本国内に拠点を置く NPO / NGO や市民グループなどが、アジア・太平洋地域で行う人材育成や組織づくりの事業を助成対象として、以下の通り、募集いたします。

#### ● 申請について

##### （1）助成の対象となる組織（申請資格）

- ① 原則として、日本国内に拠点（事務局など）を有する NPO、NGO、一般社団法人、一般財団法人、市民グループなどの非営利の組織。加えて、政治・宗教を目的としない組織であること、反社会的な活動を行わない組織であること。
- ② 原則として、1年度の収入（経常収益など）が1億円未満の組織。  
※前年度の収入を基本的な基準としますが、前年度のみ収入が特別に大きい場合等は過去3カ年の収入で判断する場合があります。その他、ご不明な点は事務局にお問い合わせください。
- ③ 活動開始から2年度を超えた活動実績を有する組織。
- ④ 申請事業を実施するうえで、現地に対等な協力組織（カウンターパート）をもつ組織。
- ⑤ 継続申請の場合を除き、過去2年度以内に本助成を受けていない組織。

##### （2）助成の対象となる事業

- ① アジア・太平洋地域で実施される事業。
- ② 社会的に脆弱な立場や経済的に困難な状況に置かれた現地の人々を、主要な受益対象者とした事業。
- ③ 現地の人々の主体的な参加と協同・組織化を促進し、現地の人々の社会的自立・経済的自立を目的とした事業。  
※上記の趣旨から、現地の人々の参加が見込めない事業、単発の研修・セミナーやイベントの開催など友好親善を目的とした交流事業、組織の維持・運営に係る運転資金の補てんが主目的である事業、調査や研究が主目的である事業などは助成の対象になりません。



## アジア生協協力基金・生協別寄付金一覧表

(単位：円)

生協名	寄付金額	生協名	寄付金額	生協名	寄付金額
北海道生協連	450,000	新潟県職員生協	1,618	コープみやぎ	895,600
コープさっぽろ	6,400,000	コープしずおか ※6	10,860,974	コープ熊本学校生協 ※9	50,000
<b>小計</b>	<b>6,850,000</b>	<b>小計</b>	<b>64,879,371</b>	生協水光社 ※9	200,000
弘南生協 ※1	200,000	コープいしかわ	26,000	コープかごしま	2,000,000
秋田県生協連	200,000	福井県民生協	349,279	コープおきなわ	1,000,000
コープあきた	200,000	めいぎん生協 ※7	6,033,650	<b>小計</b>	<b>6,877,600</b>
岩手県学校生協	200,000	みかわ市民生協 ※7	719,510	浜通り医療生協	20,000
いわて生協	1,021,000	コープぎふ	800,000	郡山医療生協	200,000
みやぎ生協	6,100,000	コープみえ	330,000	はるな生協	200,000
生協共立社	600,000	コープしが	2,270,000	東京保健生協	200,000
コープふくしま ※2	1,550,000	ならコープ	1,821,263	東京はくと医療生協	200,000
福島県南生協 ※2	100,000	わかやま市民生協	600,000	川崎医療生協	200,000
コープあいづ	800,000	京都生協	4,000,000	神奈川北央医療生協	100,000
<b>小計</b>	<b>10,971,000</b>	大阪いづみ市民生協	9,000,000	なごか医療生協	100,000
いばらきコープ	1,500,000	エスコープ大阪	50,000	富山医療生協	200,000
パルシステム茨城 ※3	100,000	大阪北生協 ※8	4,597,471	みなと医療生協	1,000,000
とちぎコープ	1,060,000	おおさかパルコープ	4,500,000	南医療生協	200,000
コープぐんま	420,600	生協連合会きらり	50,000	北医療生協	100,000
ドゥコープ ※4	200,000	コープこうべ	68,600,000	乙訓医療生協	100,000
生活クラブ生協千葉	200,000	神戸大学生協	200,000	よどがわ保健生協	100,000
ちばコープ ※5	5,000,000	<b>小計</b>	<b>103,947,173</b>	ヘルスコープおおさか	300,000
さいたまコープ ※5	4,000,000	おかやまコープ	2,200,000	医療生協かわち野生協	200,000
パルシステム東京	300,000	生協ひろしま	2,200,000	尼崎医療生協	300,000
生活クラブ生協東京	600,000	鳥取県生協	100,000	神戸医療生協	200,000
東都生協	1,000,000	生協しまね	403,630	姫路医療生協	400,000
コープとうきょう ※5	12,000,000	コープかがわ	500,000	岡山医療生協	200,000
岩崎通信機生協	19,600	香川県庁生協	64,000	広島中央保健生協	200,000
シチズン生協	10,000	とくしま生協	200,000	広島医療生協	200,000
大学生協連	1,500,000	愛媛県生協連	100,000	松江保健生協	200,000
東京大学生協	300,000	コープえひめ	350,000	愛媛医療生協	100,000
パルシステム生協連合会	1,900,000	こうち生協	100,000	高知医療生協	200,000
生活クラブ連合会	1,200,000	<b>小計</b>	<b>6,217,630</b>	くるめ医療生協	100,000
コープかながわ ※6	20,679,779	福岡県生協連	100,000	鹿児島医療生協	200,000
生活クラブ生協神奈川	265,000	エフコープ	2,000,000	<b>小計</b>	<b>5,720,000</b>
長野県生協連	200,000	佐賀県学校生協	30,000	その他 ※10	1,084,600
コープながの	1,060,000	ララコープ	300,000	<b>日本生協連会員生協合計</b>	<b>206,547,374</b>
長野県庁生協	1,800	コープおおい	300,000	日本生協連	655,651,097
新潟総合生協	500,000	大分県職員生協	2,000	<b>合計</b>	<b>862,198,471</b>

## ●生協総合研究所が日本生協連から本基金の移管を受けた 2009 年時点での寄付金一覧です。

※1 弘南生協はコープあおもりと組織合同しました。

※6 コープかながわ、コープしずおか、市民生協やまなしは組織合同しユーコープとなりました。

※2 コープふくしまと福島県南生協はみやぎ生協と組織合同しました。 ※7 めいぎん生協、みかわ市民生協は組織合同しコープあいちとなりました。

※3 パルシステム茨城はパルシステム茨城 栃木に名称変更しました。 ※8 大阪北生協はコープこうべと組織合同しました。

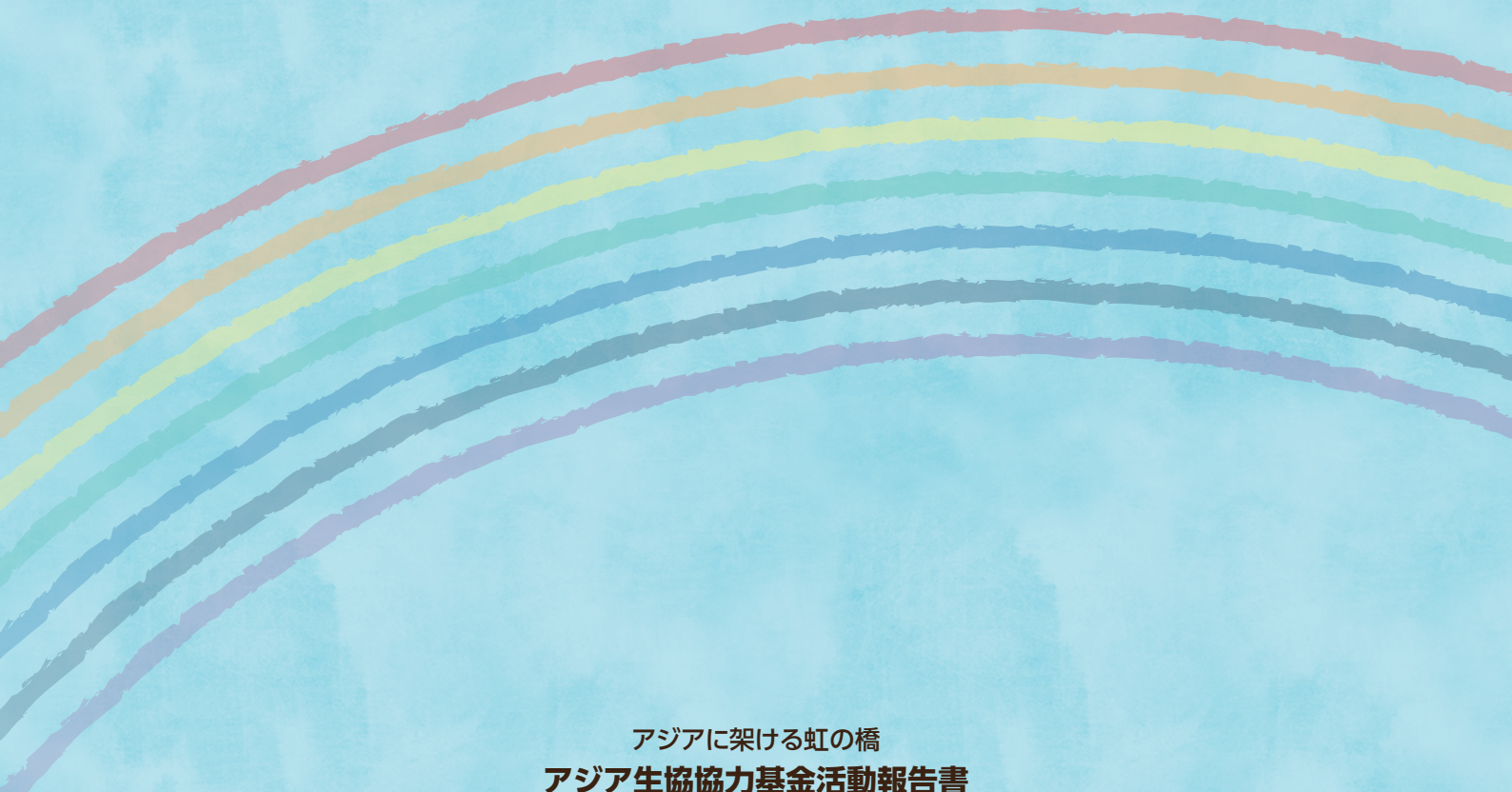
※4 ドゥコープはパルシステム埼玉に名称変更しました。

※9 生協水光社とコープ熊本学校生協は組織合同し生協くまもととなりました。

※5 ちばコープ、さいたまコープ、コープとうきょうは組織合同しコープみらいとなりました。

※10 主に2008年以前に日本生協連から脱退した生協分の寄付金です。

(2022年5月25日 現在)



アジアに架ける虹の橋  
アジア生協協力基金活動報告書  
2022